

ボート混合12位 石狩翔陽高出身の立田選手健闘

「ベスト尽くせた」恩師感慨

29日に行われた東京パラリンピックボート競技の混合かし付きフォアの順位決定戦で、12位だった日本は、札幌出身の立田寛之選手(29)＝埼玉・戸田中央総合病院ローイングクラブ＝が司令塔の「コックス」を務めた。同競技に日本が出場するのは今回初めてで、立田選手がボートを始めた石狩翔陽高(石狩市)時代の恩師2人は、新たな歴史を刻んだ教え子をねぎらった。

(中橋邦仁)



立田選手は健常者で、視覚や手足に障害のある17、49歳の男女4人のこぎ手とチームを編成。かじを取りながら、全員の息が合うよう声で指示を送った。順位決定戦は予選と敗者復活戦で決勝に進めなかった6チームが出場。日本は5番目のチームから20秒以上の差

で最後にゴールした。同高ボート部監督で、高校3年時の立田選手を指導した稲垣喜彦さん(60)は、自宅でインターネット観戦。「ベストは尽くせたと思う。障害の有無や種類、年代、性別もばらばらなチームで心を一つにし、積み上げたものを見せてもらった」と健闘をたたえた。高校1、2年時の監督で、立田選手の強気な性格を買ってコックスに起用した小川薫さん(58)＝札幌あすか

日本の競技けん引に期待



ぜ高教諭＝は「スタート前に彼の名前がコールされた瞬間は感慨深かった。今回の経験を生かし、日本のボート界をリードして欲しい」と期待を寄せた。

29日の順位決定戦で12位となった日本チーム。左手前がコックスの立田寛之選手(金田淳撮影)